

地質サイトカード

カードNo.		A-①-17		通しNo.		17		作成日		2025/3/10	
サイト名		松江層の ^{ちようせき} 潮汐堆積層									
基本情報	エリア	島根半島 探訪サイト									
	区分	☒ 地質・地形 ☐ 生態 ☐ 文化									
	利用価値	☒ 科学 ☒ 教育 ☐ 観光・ツアー									
	所在地	松江市国屋町玖夜神社									
	アクセス	山陰道 松江西ICから約7km、約15分。玖夜神社。									
	周辺施設	☐ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(5 台) ☐ ウォーキングコース ☐ サイクリングコース ☒ 観光施設(玖夜神社)									
	看板整備	島根大学教育学部松本教授が設置した看板あり									
	留意点	神社の敷地のため、なるべく表面をけずらないように									
位置情報		d-3									
保護・保全	法規制・関連団体等										
	保全メモ										
サイトの解説	みどころ	約1000万年前の古松江湾で形成された潮汐堆積物が観察できる。									
	地質・地形	ここに露出するのは、約1100万年前に堆積した松江層と呼ばれる地層である。この地点で特徴的な地層は、泥層の間に挟まれ、大きく傾いた模様(斜交層理)の発達する砂岩層である。斜交層理には薄い泥層(マッドドレイブ)が多く挟まれる。大型の斜交層理の見られる砂岩中には、反対方向の傾きを持つ小さな斜交層理も見られる。斜交層理の傾きの方向は流れの下流方向を示し、マッドドレイブは流れが一時的に停止したことを示すので、この地層を形成した流れは頻繁に停止し、流れが再開するとそれまでとは反対方向の流れが生じたことを示す。すなわち、これは潮汐の流れからの堆積物と判断される。その下の泥層にはスナガニの巣穴化石や貝化石(殻は溶けてしまっている)がみられる。貝化石からはこの地層が内湾で堆積したことが示される。 日本海では潮位差が小さいため、潮汐堆積物が形成されにくい。この地層は数少ない日本海側での潮汐堆積物の例である。松江層が堆積した時に内湾が現れた理由として、この北方で隆起が起り、現在の島根半島の骨格がこの頃に形成されつつあったことが推定される。									
	歴史・文化 生物・生態等	玖夜神社は、『出雲国風土記』にも記載のある神社である。									
写真・図等											
参考文献		中山ほか(1996)地質学雑誌, vol. 102, 379-390. 酒井哲弥(2013)地学団体研究会第67回総会, 講演要旨集・巡検案内書									